

子ども国際観光科

各校取組

令和7年度 町内小学校3年生以上

松島第一小学校 3 学年

「松島探検隊」～松島について調べたことを紹介しよう～

1・活動の概要

3 年生は 1 年を通して総合的な学習の時間「松島海探検隊」で、松島の文化的な建物や特産品について調べてきた。また、子ども国際観光科の学習では「I like ～」の表現を使って自分の好きな色やスポーツについて紹介をする活動をしたり、「What's this?」の表現でクイズを出す活動を行ってきた。これらの学習のまとめとして、6 月に自分が松島について調べてきた中で見つけた「好き」を「I like ～」を使ってカードにまとめ、紹介する活動を行った。2 月には、松島のことについてのクイズを英語で行う活動を行った。

 <p>6 月に子供たちが作成したポスター</p>	 <p>2 月のクイズ大会の様子 「What 's this?」「it's long.」</p>
---	---

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

昨年度の反省を生かして、外国語活動の授業で「I like」や「What's this?」の表現を学習したすぐ後にそれぞれの活動を取り入れ、表現の定着を図った。子供たちは積極的に友達の商品を見合ったり、クイズを出し合ったりしながら、英語の表現に触れていた。表現の他にも「circle」や「long」など長さや形、色を表す英単語も自然と覚えている様子が見られた。活動後は、子供たちが作ったカードを教室に掲示し、活動を振り返られるようにした。

3・児童の感想

- 友達のパosterを見て、松島の知らなかった場所を知ることができた。
- 自分でクイズを考えるのが楽しかった。クイズに答えるのも楽しかった。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

外国語活動で学習した表現や活動を生かして行ったことで、子供たちもスムーズに活動に取り組むことができた。「英語でこの言葉を伝えたい！」という声も多く聞こえ、子供たちは意欲を持って取り組むことができた。一方で、楽しくなってくると日本語で話してしまう子もいたので、見取りや声掛けが必要だと感じた。

松島第一小学校 4 学年

「松島のお気に入りの場所を紹介しよう」

1・活動の概要

4 年生はこれまで総合的な学習の時間「世界の国を調べよう」で、松島には様々な国から観光客が来ていることを学習してきた。また、子ども国際観光科「This is my favorite place.」の学習では「My favorite place is ～」の表現を使って自分のお気に入りの場所について紹介をする活動を行ってきた。今回の活動ではこれらの学習のまとめとして、自分が観光客の人に紹介したい松島のお気に入りの場所について、「My favorite place is ～」を使って紹介し、「I like ～」を使っておすすめしたい理由を話す活動を行った。



好きな場所について紹介している場面
「My favorite place is Zuigannji.」



「My favorite place is Matsushima Rikyu.
I like snack.」

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

紹介する場所の写真をタブレットで見せながら友達に伝えるようにしたことで、指差しをしながら紹介する様子が見られた。子供たちは積極的に友達に話しかけ、自分が紹介したい理由についても「I like ～」を使って紹介することができていた。名称の言い方が分からないときや、「I like ～」の続きの英語が分からない場合には、日本語で話してもよいこととした。

3・児童の感想

- 友達のお気に入りの場所が知れて、行ってみたいと思いました。
- 英語で読むことができたのと、松島の自分のお気に入りの場所を紹介できた。相手の顔を見て相手に分かるように発音できた。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

子ども国際観光科で学習した表現を、他の学習に生かすことで、その文法表現がより子供に定着したと感じた。また、外国語活動「My favorite place is ～」と社会科「美しい景観を生かすまち・松島町」の学習と同じ時期に行ったことで、児童はスムーズに活動に取り組むことができていた。

松島第一小学校 5 学年

- ・台湾交流 ～日本の文化を紹介しよう～
- ・「松島の芸能」～和太鼓について英語で紹介しよう～

1・活動の概要

5月14日(水)に、台湾の永建小学校(5・6年17名)が来校した。3時間という短い時間だったが、お迎えの会、お茶体験、折り染め、合同給食、お見送りの会を通して交流を深めた。

また、10月に行われた学習発表会に向けて、松島の伝統芸能である「五大堂太鼓」について調べ、演奏を行った。当日は、太鼓の紹介を英語で行った。

	
台湾交流の様子	学習発表会で和太鼓について紹介 「We will play “Matsuissoyo-Daiko.”

2・活動を終えて(留意した点や活動中の児童の様子など)

台湾交流では、言葉の違いだけでなく、学校生活や文化の違いを感じながら、自主学習で調べた台湾語や中国語、英語を使ったり、身振り手振りで表現したりして通じ合うことができた。初めは緊張していた子供たちだったが、あっという間に仲良くなっていた。見送りでは、ハイタッチをしたり握手をしたり、最後まで名残惜しそうな様子が見られた。

3・児童の感想

- 自主学習で調べた中国語や台湾語が通じて嬉しかった。
- 言葉がよく分からなくても、身振りなどでなんとなく言いたいことが分かり、気持ちが通じたような気がした。
- 「We」や「Will」などの発展的な言葉に挑戦して、それを言えたことが嬉しかった。

4・次年度へ向けて(成果と課題)

台湾の永建小学校の児童と交流を通して、英語などの外国語に興味を持った児童が増えた。言葉が通じるかどうかではなく、「伝えたい!」と思う気持ちが子供たちの主体性を育むと感じた。

また、松島の「五大堂太鼓」について調べたり、練習したりして学習発表会で披露することは、地域の伝統芸能を受け継いでいく大切なことなので継続していきたい。

松島第一小学校 6 学年

「見つめよう わが町松島 松島の歴史編」～プロジェクト松島編～

1・活動の概要

総合的な学習の大単元「見つめよう わが町松島」の中に「松島の歴史編」、「プロジェクト松島編」を位置付け、「松島まるごと学」での学習を契機に関心を持ったことについて、児童が調べたり話し合ったりして学習を進めている。学習の成果を学習発表会での劇に取り入れ、より多くの人に向けて発信していくという意識付けを図った。

「松島の歴史編」では、「松島まるごと学」として西の浜貝塚や雄島、瑞巖寺を見学したり、座禅体験をしたりした。松島の歴史について関心を持って調べ学習をしたことをもとに脚本を作り、学習発表会で「新松島～桃太郎物語～」として劇を発表した。

「プロジェクト松島編」では、松島町役場企画調整課と連携し、未来の松島がよりよい町になるように、子供たちが提案事項を考えてプレゼンテーションを行った。その際、松島町広報誌から情報を収集し、松島長期総合計画の目標に沿って提案内容を考えた。また、班によっては外国人観光客にインタビューを行い、外国語学習で学んだ表現を生かした。



見仏上人による座禅の修行シーン



外国人へのインタビュー

「Where are you from?」

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

「松島の歴史編」では、「松島まるごと学」からの学びを劇中に取り入れることで、児童の関心が高まった。しかし、松島の歴史について難しい面もあり、児童が主体となって取り組むことが難しく、教師主導の側面が多くなってしまった。「プロジェクト松島編」では、学習の中で持った疑問について、児童が実際に外国人観光客へインタビューを行った。外国語学習で学んだことが生かせるようにし外国語専科やALTの指導を受けながら相手を意識した英語のやり取りを目指すように留意した。また、松島の課題を探るため、児童や保護者にアンケートを実施することで、松島への関心や理解がより深まっていた。

3・児童の感想

- 劇を通して松島の歴史について以前より知ることができた。
- 実際に外国人観光客にインタビューを行ってみて、緊張したがやりとりの中で自分達が聞きたいことをしっかり聞いた。
- 長期総合計画に沿って、松島のことを調べていくうちに、以前より松島のことに詳しくなった。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

外国人観光客とインタビューを通して実際に関わることができ、外国語学習の学びを生かせた。また子ども国際観光科で学習した表現を、生活の中で全員が生かせる場面があるといいと感じた。

松島第二小学校 3学年

「This is for you. カードをおくろう」～探検ぼくらの松島～

1・活動の概要

社会科「町の様子」と総合的な学習「探検ぼくらの松島」の学習の一環として見学した町内の施設見学の体験から、「松島のよさ」をテーマに調べたいことを選び、それについて宣伝する「ポスター」づくりを行った。外国語活動で学んだ色や形、数の表現を使って、各カードを扱う「お店」とそれをもらう「お客」に扮してやりとりを行う。自分のイメージする色や形のカードを組み合わせる「松島」をイメージするポスターができあがっていく。できあがったポスターは各自撮影しロイロノートで共有した。



What do you want? Brue triangle, please.
OK. Here you are. Thank you.



Godaido.

Four red triangle and rectangle.
And four black circle.

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

- 「松島のよさ」について児童の体験や調査をもとにさせ、ポスターというかたちで表現させること、そして「子ども国際観光科」と「外国語活動」の関連を図った内容であることから、児童の活動意欲を高め、同時にふるさとへの誇りを持たせることにつながった。
- 昨年までは図形カードを画用紙に貼付させたが、今年度は図形を台紙に置いて作品作りを行い、それを各自が写真に収めて発表する流れにしたことから、教具を次年度も継続活用できることになった。
- 「お店」と「お客」というシチュエーションで、会話を通してカードをやりとりすることで、児童は英語で伝えることの必要性和楽しさを感じることができた。

3・児童の感想から

- 言われたものをちゃんと渡せた。
- 英語で「数」「形」「色」をがんばって言うことができた。
- 英語をいっぱい言えた。
- 英語が分かった。
- 形を作るのが楽しかった。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

- 今後、他学年においても、次年度も継続活用することを意識して教具教材づくりを行っていく。
- 習得させたいフレーズや単語の掲示（イングリッシュルームでの常掲、活動の場での掲示）について更に工夫していきたい。

松島第二小学校 4 学年

「田中川探検で見つけたお気に入り」～探検ぼくらの松島～

1・活動の概要

本単元では、外国語活動と松島まるごと学「田中川を調べよう」を関連付け、児童にとって身近な川である田中川で見つけたお気に入りの動植物について、英語を用いたコミュニケーションを行った。田中川探検の一日の様子を「What time is it?」で想起し、「I like～.」「Why～?」のやりとりで紹介する。ダブルサークルでの反復により会話は活発化し、また表情を加えたりアクションカードを活用することで、「生きた英語のやりとり」を実現することができた。この活動を生かして、5年生に対して英語で発表会を行った。



Hello! What's this?
This is a lotus leaf and a mulberry.



What time is it? It's 9 o'clock.
This is a snail.

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

- 外国語活動で学んだ挨拶や時間表現をうまく児童の体験と関連付け指導に取り入れることができた。
- ダブルサークルでの交流は、全員に確実に発表回数を保証するものとして有効だった。
- 導入のチャンツで本単元のキーセンテンスを取り上げたり掲示したりしたことで、児童は随時発表の流れを確認することができた。

3・児童の感想から

- いろいろな虫や動物の外国語での呼び方が勉強できて楽しかった。
- 5年生が真剣に発表を聞いてくれて、うれしかった。
- ハスの葉の呼び方が「ロータスリーフ」だとは思わなくておどろいた。
- 英語を使った紹介は難しかったけど、楽しかった。
- また英語を使って、何かを紹介してみたい。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

- 外国語活動で取り上げる単語の中に、田中川関連の動植物に関するものを意図的に扱うとより習得はスムーズになるので、JTE, ALT とも双方の活動の進め方についてより連携を図りたい。
- ダブルサークルでの交流について、児童の習得度に応じてレベルアップできるような課題を随時与えたい。
- 単元の「目指す姿」について、はじめに教師が「モデル」を示すと、児童は自分の課題をより明確にしやすい。

松島第二小学校 5 学年
「松島の文化を伝えよう ～五大堂太鼓～」

1・活動の概要

総合的な学習「松島まるごと学『五大堂太鼓』を学ぼう」で、地域の方々が創作した「五大堂太鼓」を習得し学習発表会で発表した。さらに、外国語学習で学んだことを生かして松島を訪れた外国の方々にその良さを伝える場を設け、松島の歴史的文化財について調べたことや「五大堂太鼓」を紹介する活動を行った。児童は、外国語学習で学んだ表現方法で、外国の方が体験する際の説明の言葉掛けなどを行った。

	
<p>My name is . I like . Nice to meet you!</p>	<p>I' ll show you how. pierce/ tap/ right hand/ left hand</p>

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

- MIA 国際理解教育事業を利用し、3人の外国人の方々に太鼓の打ち方を英語で説明する活動を設定した。児童に、英語で説明する必要感を持たせ、相手に伝わる説明ができるように課題を設定した。
- これまでに学習した単語や調べた単語などを使って、自己紹介をしたり、太鼓の打ち方を教えたりした。とても意欲的に取り組み、交流を楽しむ様子が見られた。
- 外国の方から英語で質問され、「質問の内容が理解できた」と喜ぶ児童の姿も見られた。

3・児童の感想から

- 「太鼓のたたき方を英語で伝えたら、分かってくれたのがうれしかった。」
- ラオスや韓国の文化について聞く活動を通して、「ラオスで昆虫を食べることに驚いた。韓国にも行ってみたい」「ラオスの文字は形がおもしろいと思った。いつか行ってみたい。」「知らなかった国のことを知ることができて良かった。」という感想が聞かれた。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

- 外国語科の学習成果も発揮し「生きた英語のやりとり」として即興的な会話を実現するためには、実際に外国の方と活動しながら交流することが大変効果的であることを改めて感じた。
- MIA 国際理解教育事業について、本学年の子ども国際観光科の活動をまとめるものとして定例化したいところである。町教育委員会と連携して、次年度以降も実施したい。

松島第二小学校 6 学年
「よその町を訪ね、松島と比較しよう」

1・活動の概要

総合的な学習「松島まるごと学『よその町を訪ね、松島と比較しよう』」で、修学旅行で訪れた会津若松市の歴史、地理、文化、特産物等について各自のテーマを決めて調べ、自主研修や見学を通して学んだことをスライドにまとめて5年生に、また学習参観日で保護者に向けて発表した。また、外国語科のUnit3では「I went ~」「I enjoyed ~」「I ate ~」「I played ~」など過去形の表現を学ぶ。本単元では、総合的な学習で体験したり調べたりしたことを外国語科の学習で学んだ表現方法で発信することを通して、改めて自分たちの住む地域「松島」と比較した。そして「松島のよさ」について観光で訪れる外国人を見据えて英語で紹介する活動につなげた。

	
<p>I ate ramen and source katudon. It was super delicious. Oh! Very nice!</p>	<p>I went to Aizu. I made Etokoboushi. It is fun!.</p>

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

- スライドを作成させ提示しながら話すことで、聞き手は写真から様子をイメージして聞くことができ、少ない語彙の補助とすることもできた。一方で話し手は、話す内容を焦点化し、反復を繰り返すことで自信を高めて発表に臨むことができた。
- 児童が互いに話し合い、関わりながら活動できるように、3、4人のグループ構成とし、英語の知識・技能・表現力についてバランスに配慮した。発表の基本センテンスを統一したことで、発表に苦手感を持つ児童も自信を持つことができた。
- 振り返りシートでは、「知っている英語表現を一つ以上使えたか」「自分が伝えたいことを英語に変換するために、進んで調べたり先生に聞いたりしたか」など、できるだけ児童が丸を付けて自己肯定できるような項目を設定した。また、発表会だけでなくそこに至る各活動過程でも、グループ内で相互評価ができるような項目を設定したことで、認め合いの雰囲気が生まれた。

3・児童の感想から

- 外国語の時間に勉強したことを使って英語話せて、うれしかったです。
- 練習したら、メモを見ないで話すことができました。グループで練習したときにたくさんアドバイスをもらったので、うまく話せました。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

- 児童自身の体験を基にした伝え合いの活動となり、英語表現への意欲を引き出すことにつながった。
- 「指導と評価の一体化」を実現するために、導入の教師のデモンストレーションを児童と共有し、最終的に「まとめ」の児童の姿につなげる今回の流れは望ましいスタイルである。

1・活動の概要

4月からスタートした外国語活動を毎週楽しみにしている。台湾交流も初めてということで、授業で使った「Hi! I' m ○○.」と「I like ○○.」のフレーズを活用し、自分の名前と好きなものを紹介した。自分の好きなスポーツや特技を、実際にやって見せたり、できあがった実物を示したりしながら紹介することができた。



2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

初めての台湾交流だったので、動画の撮影は4年生が担当し、緊張しながらも一生懸命話していた。「What ○○ do you like?」のフレーズを使い、相手に問い掛けることで、相手意識を持てるようにした。

また、児童会行事への取組を紹介する場面では、4年生と役割分担しながら、実演を交えて意欲的に紹介することができた。

3・児童の感想から

- 動画を撮る時は、昨年の動画を参考にしたり、4年生に手伝ってもらったりしながら相手に伝わるように頑張った。
- オンライン交流会では、ゆっくり間違えないように気を付けながら話した。
- 台湾の子供たちが拍手をしてくれてうれしかった。
- チャコボールを壁にぶつけて遊んでいて楽しそうだった。
- 白菜を育てるのに、小さい箱で育てていてびっくりした。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

一方的に好きなものを伝えるだけでなく、相手に好きなものを聞いてから自分自身について話すことで、相手意識が持てるようになった。

さらに、4年生と一緒に活動することで、お手本を見せてもらったり、励ましてもらったりして、意欲が高まった。また、自分の好きなものを紹介するために、自作の絵や折り紙を見せたり、実演を交えたりしながら工夫する姿も見られた。

準備期間が短かったので、イントネーションや発音の修正、大きくはっきり話す練習をする時間が十分に取れなかった。1学期に教科書の内容を見て、使えるフレーズを探し、英語専科の教員とあらかじめ打合せをしておく、日々の外国語活動の学習と台湾交流の取組をより関連付けることができると感じた。

松島第五小学校 4 学年

「双冬小学校の人たちに『学校の好きな場所』を紹介しよう」台湾・双冬小学校とのオンライン交流

1・活動の概要

台湾交流が2年目ということで、授業で学習する予定の「This is the ○○. This is my favorite place. Why?」のフレーズを活用して、自分の好きな場所を紹介した。校庭、体育館、自分の教室、理科室、家庭科室を好きな理由と一緒に紹介することができた。

 <p>This is my favorite place.</p>	 <p>This is my favorite place.</p>
This is my favorite place. Why?	I like seesaw.

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

4年生は子供たちの「昨年よりグレードアップさせたい!」という思いから、相手に問いかけたり、その場所が好きな理由も伝えたりできるように考えさせた。4年生同士協力しながら紹介動画の撮影に取り組み、松島第五小学校のよさや自分の思いを伝える活動に意欲的に取り組むことができた。

3・児童の感想から

- 動画撮影は、お互いに助け合いながら、相手に伝わるように工夫しながら撮影するようになった。
- 自分が紹介したい場所を決めて紹介できたことが良かった。
- 動画を見て、台湾にも桜が咲いているということが分かった。
- 動画撮影やオンライン交流では、相手に正しく伝わるように、間を取りながらはっきり話すように気を付けた。
- チャコボールが楽しそうだったのでやってみたくなった。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

一方的に好きな場所を伝えるだけでなく、理由を問いかけたり、自分自身について話したりすることで、相手意識を持てるようにした。

また、秋に取り組んだ児童会行事「どんぐりフェスティバル」の紹介も入れ、勉強だけでなく、行事でも工夫して楽しく取り組んでいる様子を伝えることができた。

教科書の中に交流で使えるような表現が少なく、まだ学習していない内容での取り組みとなった。イントネーションは何度も練習したが、なかなか直すことができないまま動画の提出期限になってしまったことが悔やまれる。1学期に教科書の内容を見て、使えるフレーズを探し、英語専科の教員と相談して単元を入れ替えるなどの対応をすると、子供たちも自信を持って英語を使うことができると感じた。

松島第五小学校 5 学年

「双冬小学校の人たちに松島第五小学校を紹介しよう」

台湾・双冬小学校とのオンライン交流

1・活動の概要

5年生は、「松島第五小学校について教えたこと」をテーマにして動画を作成した。作成にあたり台湾の学校のカリキュラムや施設・設備について調べて、台湾と日本の学校を比較し、異なることについて紹介した。

紹介の際には、授業で学習したセンテンスを用いて紹介するよう工夫した。実際に動画を見た双冬小学校の子供たちからは、「日本にはお昼寝がない分、早く家に帰れてうらやましい。」という感想や、「早く下校する分、放課後はどのように過ごしているのか。」などの質問があった。

児童自身が英語で紹介したことが、台湾の子供たちに通じたことを実感できる貴重な経験となった。



2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

授業で学習した構文を用い、「Turn Right.」「Go straight.」で教室まで道案内をした。また、教室にある物や学校の設備を「This is ~.」と英語で示し、それがどんな物であるかを日本語と英語で説明した。

児童は、自分が紹介したいことや施設について、台湾になくて日本にはあることで、どんな内容だと違いを感じて、興味をもってもらえるかを話し合いながら紹介動画を作成していた。

3・児童の感想から

- 双冬小学校のオカリナ演奏が上手でした。オカリナはどうやって覚えたのか気になりました。
- ロイロノートで作った自己紹介スライドに、双冬小学校の人が自分で日本語の字幕を入れていてすごいなと思いました。
- 授業の内容や教科、校内の雰囲気なども知りたくなりました。
- 黒板の後ろに電子モニターがあっけいなと思いました。
- 体育の中で好きな種目はバスケットボールと言っていたので、勝負してみたいと思いました。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

5年生は「松島第五小学校について教えたこと」という身近なテーマだったものの、動画作成前に台湾の学校のことを調べたり、双冬小学校の様子を昨年の動画等で見たりすることで、日本との違いを考え、相手を意識して動画を作成することができた。さらに交流会では、動画を見てからの質問や感想を伝え合うことができたので、意欲を高めたまま活動することができた。

準備期間が短かったこともあり、英語で説明する練習時間が十分に取れなかった。英語専科の教員との打合せを1学期中に行い、使えるフレーズを活用しながら動画作成等を行うと、普段の外国語活動の学習と台湾交流の取組をより関連付けることができると感じた。

松島第五小学校 6 学年

「双冬小学校の人たちに宮城・松島・会津を紹介しよう」

台湾・双冬小学校とのオンライン交流

1・活動の概要

6年生は、まるとと学で学習した郷土松島の歴史や特色、修学旅行で訪れた会津若松について調べ、自分たちが台湾の子供たちを実際に案内するつもりで、観光案内動画を作成した。

授業で学習したセンテンスを用いて、なるべく英語を使って紹介するよう工夫した。実際に動画を見た双冬小の子供たちからは、「瑞巖寺のライトアップは、昔からの風習によるものなのか？」という質問や、会津の東山温泉を紹介した動画については、「日本の温泉は体が温まると聞いている。入ってみたい。」などの感想もあった。

自分が英語で紹介したことが、外国の子供たちに通じたことを実感できる貴重な経験となった。

	
Matsushima is a Great! Have a nice trip!	This is zuiganzi. You can study Matsushima history.

2・活動を終えて（留意した点や活動中の児童の様子など）

授業で学習した構文を用い、“Where is this?” で写真を見せながらクイズを出す形式にした。

“This is ~.” と英語で答え、それがどんなものであるかを説明した。

また、“You can ~.” “It’s ~. Thank you.” とその場所でどんなことができるのかを具体的に英語で説明させることで、外国の人が旅行先での体験をイメージできるような内容にすることを心掛けた。

児童は自分が紹介したい場所について、外国の旅行客がワクワクするような体験はどんなことかをイメージしたり話し合ったりしながら紹介動画を作成していた。

3・児童の感想から

- 動画を作るときには、会津についていろいろなことを教えるために工夫をすることが意外と難しかった。
- 台湾の小学校には、日本にはないお昼寝の時間があるのを知ってびっくりした。
- 双冬小学校の人たちに、松島の魅力を紹介して仲を深められたと思った。
- 動画の作成では、自分が言いたいことを簡単な英語にするにはどうすれば良いか、いろいろな工夫のしがいがあった。英語でよりよく言えるように頑張ろうと思うことができた。本番に向けた練習をしているときも、自分なりの工夫をして取り組めた。

4・次年度へ向けて（成果と課題）

今年度は双冬小学校の方から、「マンツーマンでのコミュニケーションを充実させたい。」という要望があった。そこで、双冬小から送られてきた自己紹介動画について、オンライン交流で個々に返答することにした。松島五小では宮城・松島の魅力を英語で伝えることがメインであるため、マンツーマンでの交流は難しいが、個人を意識して感想や質問を交流することも考えていきたい。